

証券コード6859

エスペック株式会社

2023年度(2024年3月期) 決算説明

2024年5月23日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

決算総括

国内のEV・バッテリー分野がけん引し、過去最高業績を更新
すべてのエリアで増収、値上げ効果もあり収益性が改善

前期比

予想比(2023年10月修正)

■受注高	○ 装置事業(環境試験器、エナジーデバイス装置)およびサービス事業(受託試験)が増加	○ すべての事業が上回る
■売上高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(環境試験器)が大幅増	○ すべての事業、特に装置事業(環境試験器)が上回る
■営業利益	○ 販管費は増加したが、増収および原価率改善により大幅増	○ 売上高の上振れおよび装置事業・サービス事業の原価率改善により上回る
■経常利益 親会社株主に帰属 する当期純利益	○ 営業利益の増加により大幅増	○ 営業利益の増加により上回る

- 1株当たり配当金は、期末配当金を期初計画から5円増配(2024年5月15日発表)
年間では、中間25円、期末50円、年間75円を予定

損益の状況

(百万円)

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	59,521	61,000	62,290	+4.7%	+2.1%
売上高	52,892	58,500	62,126	+17.5%	+6.2%
売上原価 (原価率)	34,935 (66.0%)	38,000 (65.0%)	40,132 (64.6%)	+14.9% 1.4pt改善	+5.6% 0.4pt改善
売上総利益	17,957	20,500	21,994	+22.5%	+7.3%
販管費	13,590	15,000	15,408	+13.4%	+2.7%
営業利益	4,366	5,500	6,585	+50.8%	+19.7%
経常利益	4,664	5,750	6,919	+48.3%	+20.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,330	4,000	4,969	+49.2%	+24.2%
ROE	7.2%	8.1%	10.0%	+2.8pt	+1.9pt

2023年8月よりコスモピアハイテック株式会社を連結の範囲に含めています。

セグメント別の損益の状況

(百万円)

		2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
装置事業	受注高	51,446	52,760	53,565	+4.1%	+1.5%
	売上高	45,031	50,350	53,518	+18.8%	+6.3%
	営業利益	3,919	4,980	5,848	+49.2%	+17.4%
サービス事業	受注高	6,963	7,340	7,634	+9.6%	+4.0%
	売上高	6,788	7,250	7,536	+11.0%	+4.0%
	営業利益	428	550	681	+59.3%	+24.0%
その他事業	受注高	1,469	1,300	1,453	△1.1%	+11.8%
	売上高	1,404	1,300	1,455	+3.7%	+12.0%
	営業利益	16	△30	51	+211.0%	-
連結消去	受注高	△359	△400	△363	-	-
	売上高	△330	△400	△383	-	-
	営業利益	1	△0	3	-	-
計	受注高	59,521	61,000	62,290	+4.7%	+2.1%
	売上高	52,892	58,500	62,126	+17.5%	+6.2%
	営業利益	4,366	5,500	6,585	+50.8%	+19.7%

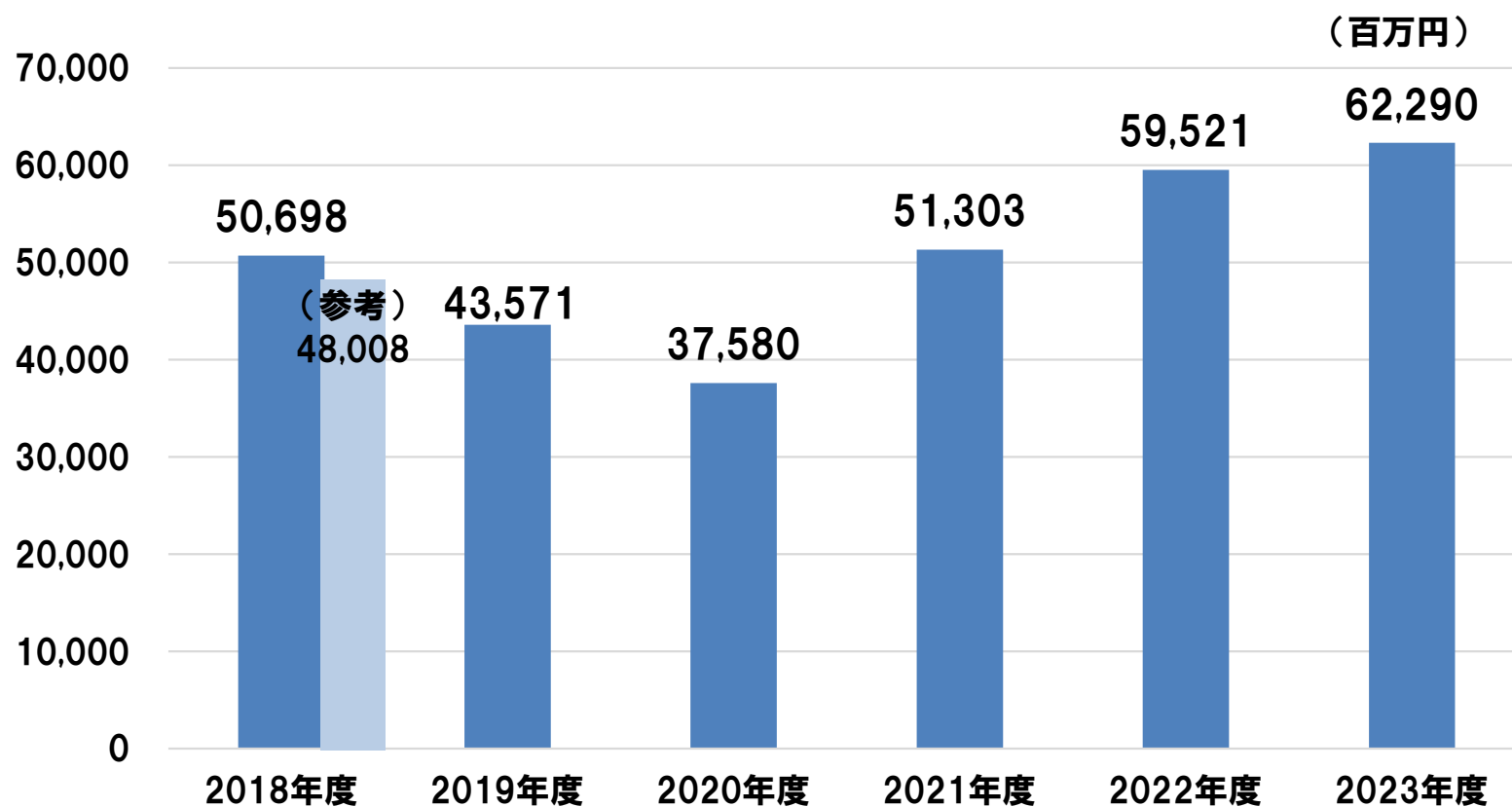
2023年8月よりコスモピアハイテック株式会社を連結の範囲に含めています。

2023年度実績 受注高について

■ 受注高は、3期連続で過去最高更新

日本を中心に東南アジア・韓国・台湾が増加、北米は横ばい、中国・欧州は減少

受注高



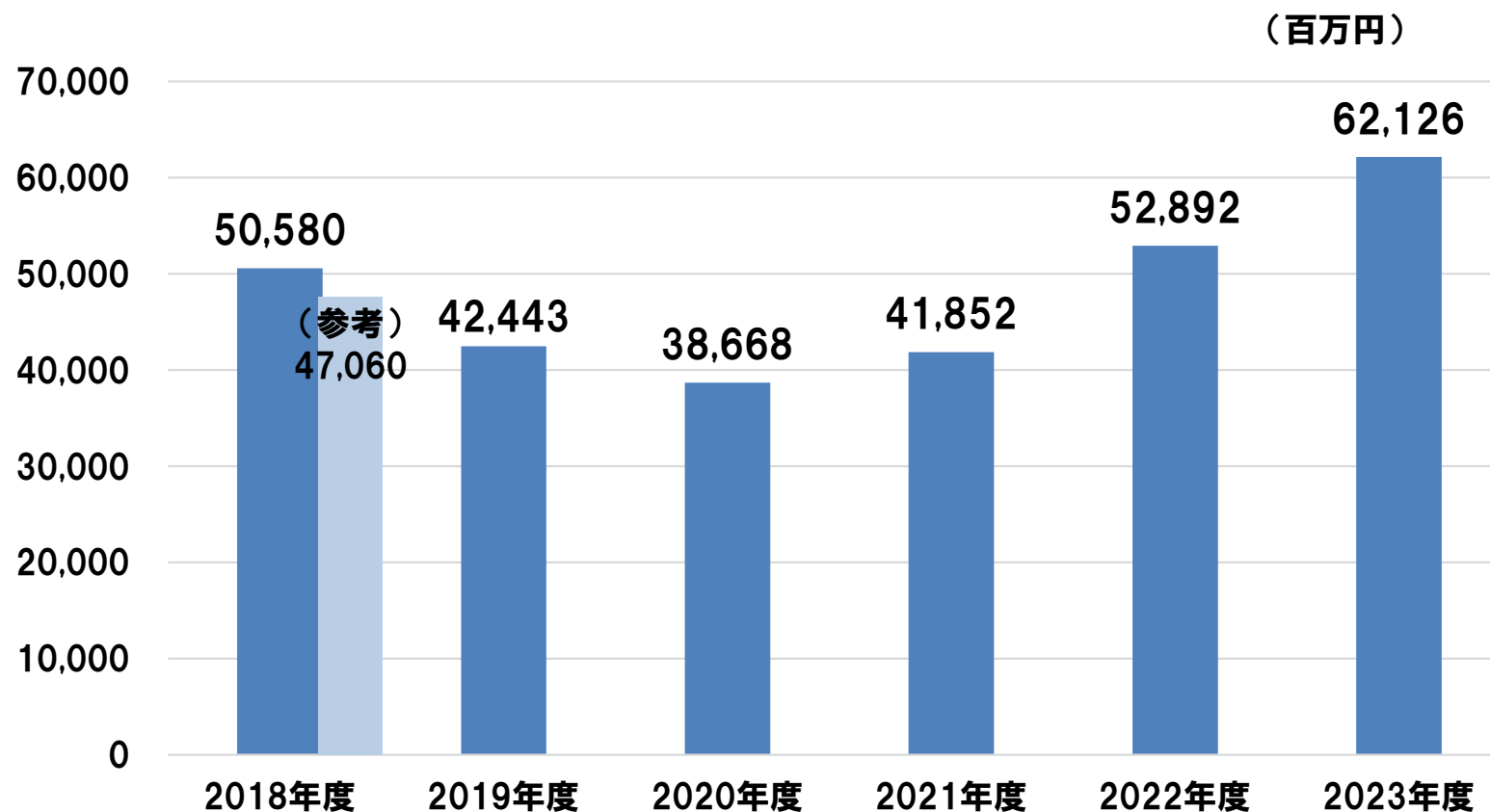
※2018年度は海外子会社の決算期間が15カ月の変則決算、(参考)は12カ月であった場合の参考値

2023年度実績 売上高について

■ 売上高は、2期連続で過去最高更新

すべてのエリアで増加、国内の生産対応強化により日本が大幅に増加

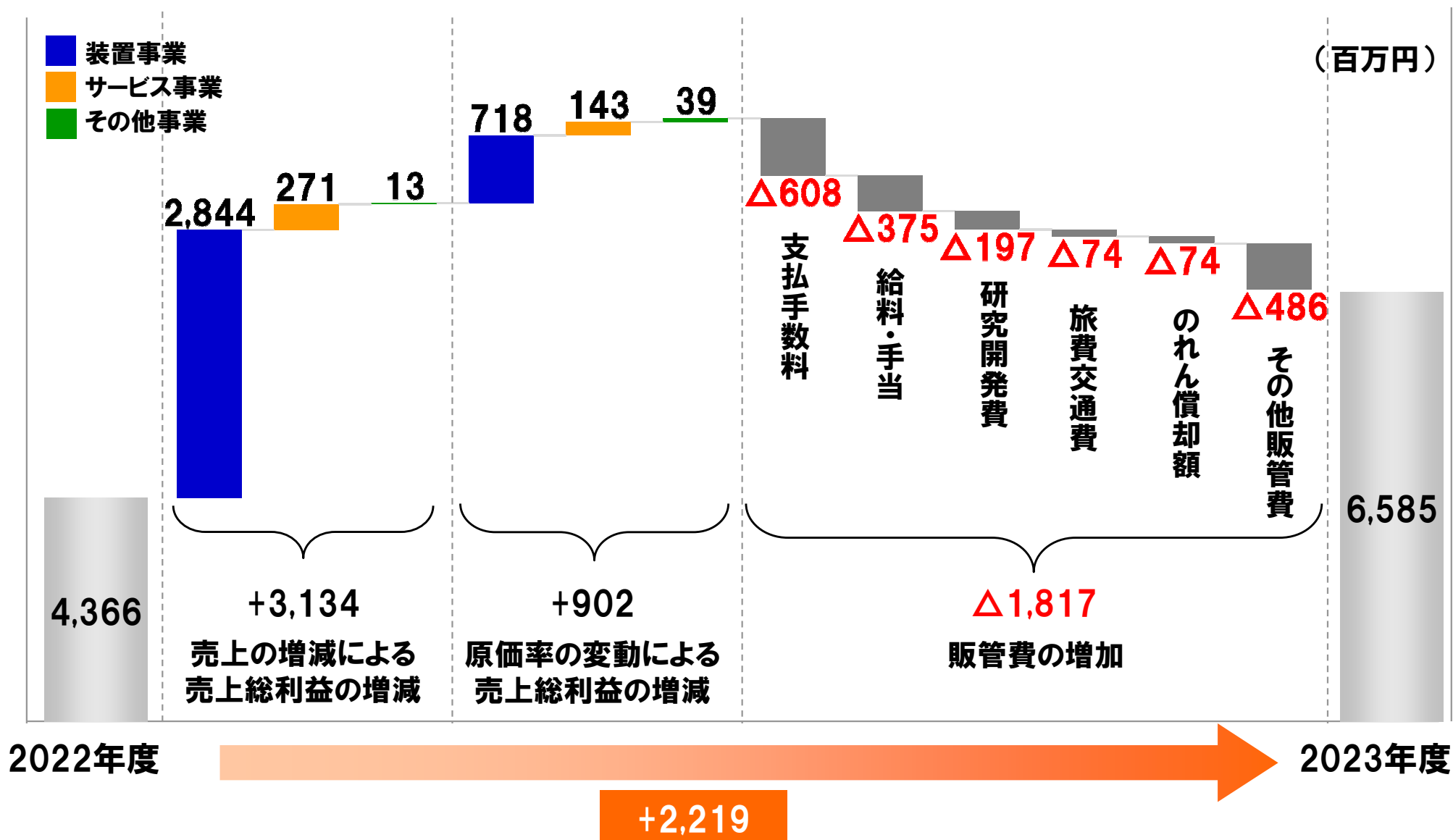
売上高



※2018年度は海外子会社の決算期間が15カ月の変則決算、(参考)は12カ月であった場合の参考値

営業利益の増減要因分析

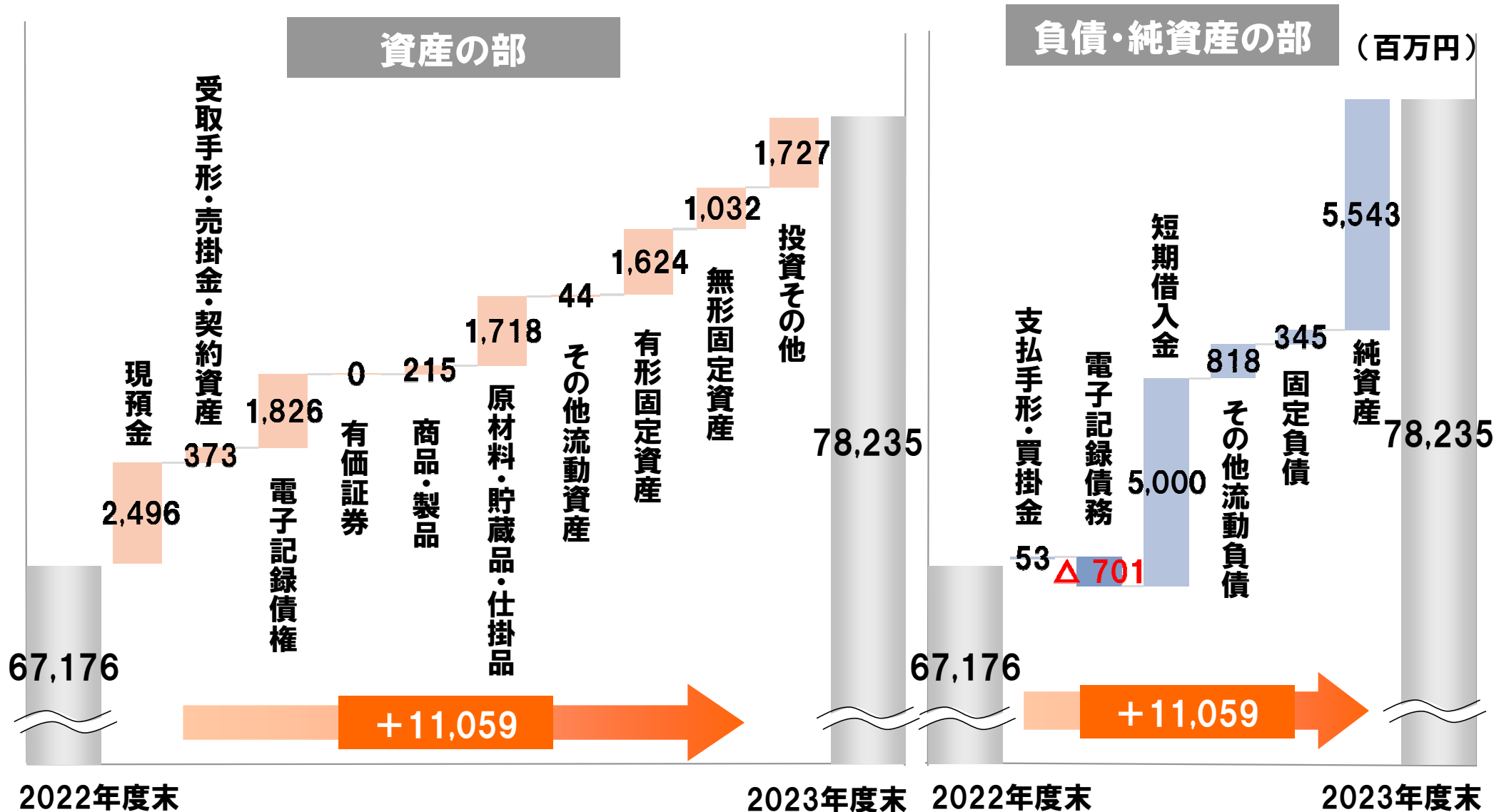
■販管費は増加したが、装置事業の増収、値上げによる原価率改善により大幅増益



※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

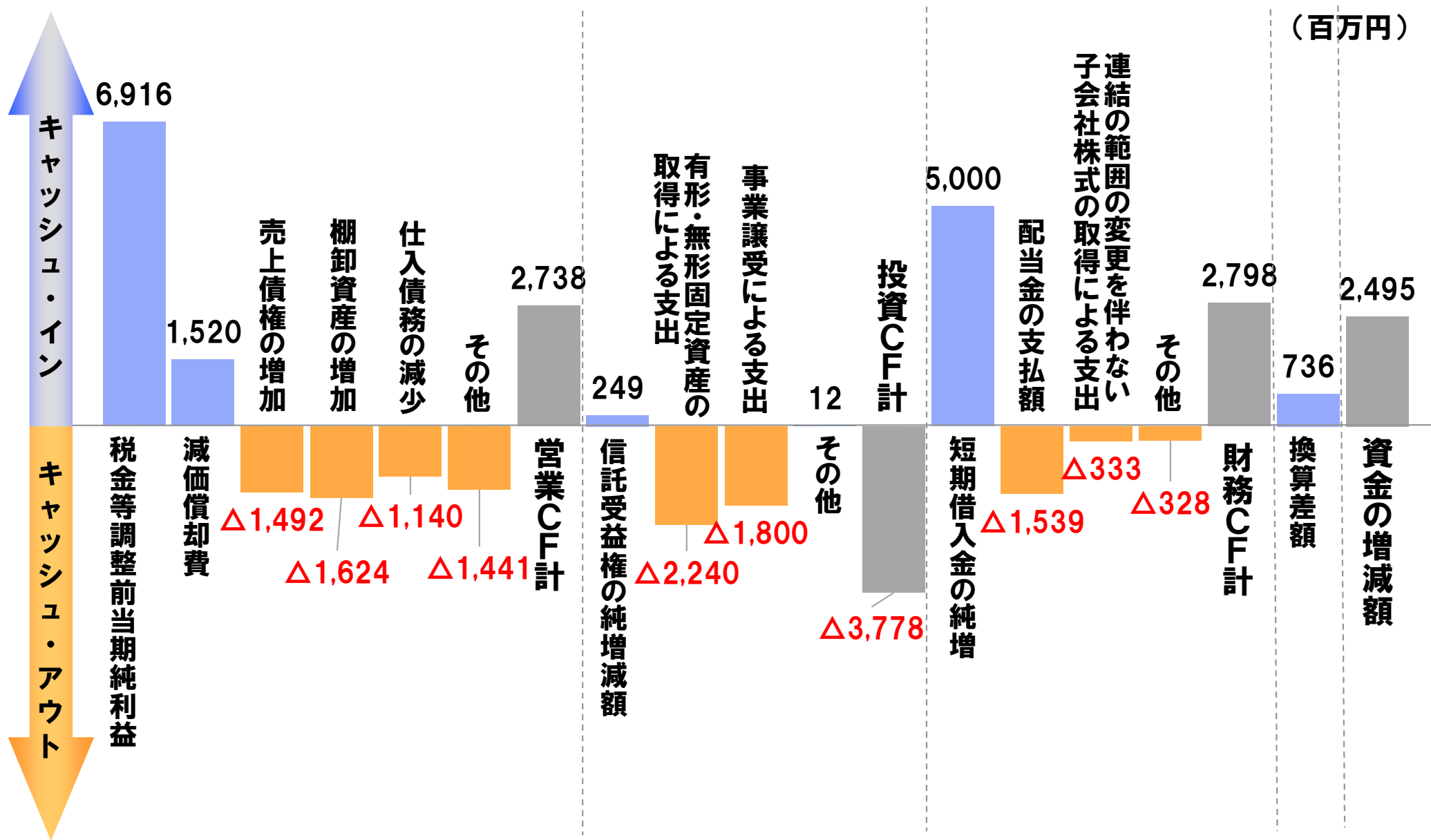
資産・負債の状況

■売上拡大に伴う売上債権・棚卸資産の増加、および有形・無形固定資産の増加により資産は約110億円増加



キャッシュフローの状況

■50億円の短期借入を実施、固定資産取得および事業譲受などにより資金は約25億円増加



装置事業セグメント

(百万円)

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	51,446	52,760	53,565	+4.1%	+1.5%
売上高	45,031	50,350	53,518	+18.8%	+6.3%
営業利益	3,919	4,980	5,848	+49.2%	+17.4%
利益率(%)	8.7%	9.9%	10.9%		

環境試験器

- 国内では、受注高は汎用性の高い標準製品は前期並みとなったものの、カスタム製品はEV・バッテリーを中心に大幅に増加。
売上高は、カスタム製品への要員シフトなど生産対応を強化し、全体で増加。
- 海外では、受注高は中国および欧州が減少し、前期比で減少。
売上高は、北米、欧州、韓国、台湾、東南アジアが増加し、前期比で増加。

エナジーデバイス装置

- EV・バッテリー向けの投資拡大により、主に国内で充放電試験用チャンバーが好調に推移し、受注高は前期比で大幅に増加。売上高は、生産体制を整備し、大幅に増加。

半導体関連装置

- 主にメモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高・売上高ともに前期比で減少。

サービス事業セグメント

(百万円)

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	6,963	7,340	7,634	+9.6%	+4.0%
売上高	6,788	7,250	7,536	+11.0%	+4.0%
営業利益	428	550	681	+59.3%	+24.0%
利益率(%)	6.3%	7.6%	9.0%		

アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加。

受託試験・レンタル

- 車載用バッテリーを中心に受託試験が好調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加。

その他事業セグメント

(百万円)

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	1,469	1,300	1,453	△1.1%	+11.8%
売上高	1,404	1,300	1,455	+3.7%	+12.0%
営業利益 利益率(%)	16 1.2%	△30 △2.3%	51 3.5%	+211.0%	-

環境保全・植物育成装置

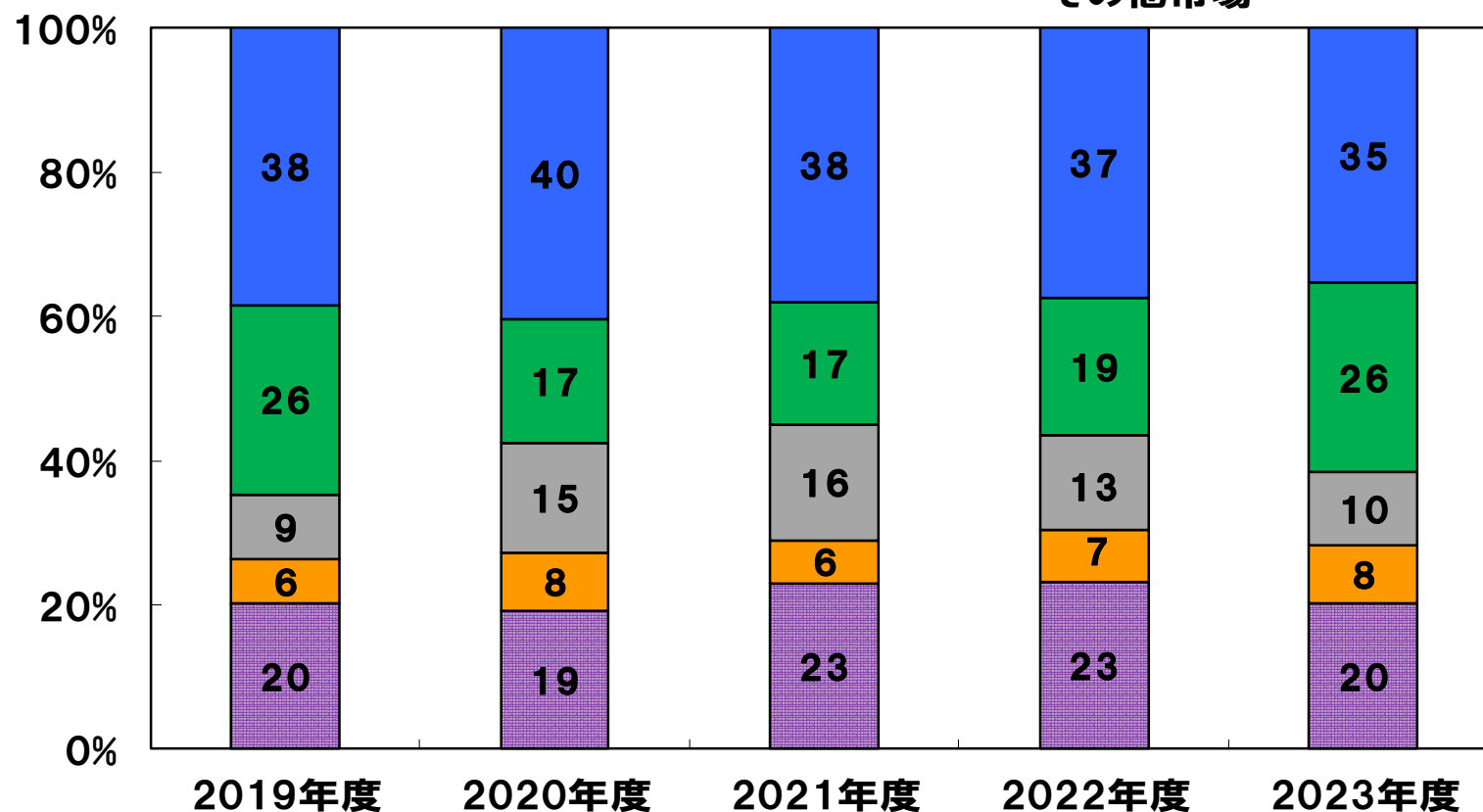
- 新たに手掛けている植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスなどの受注を獲得したが、森づくりや植物研究用装置が減少し、受注高は前期並み。売上高は、水辺づくりや野菜の販売が堅調に推移し前期比で増加。

市場別売上構成比

■売上高は、電子部品・電子機器市場は約1.2倍、
自動車市場はEV・バッテリーを中心に大幅に増加し約1.5倍、半導体市場は減少

単体（装置事業）

- 電子部品・電子機器市場
- 自動車市場
- 半導体市場
- 研究機関市場
- その他市場

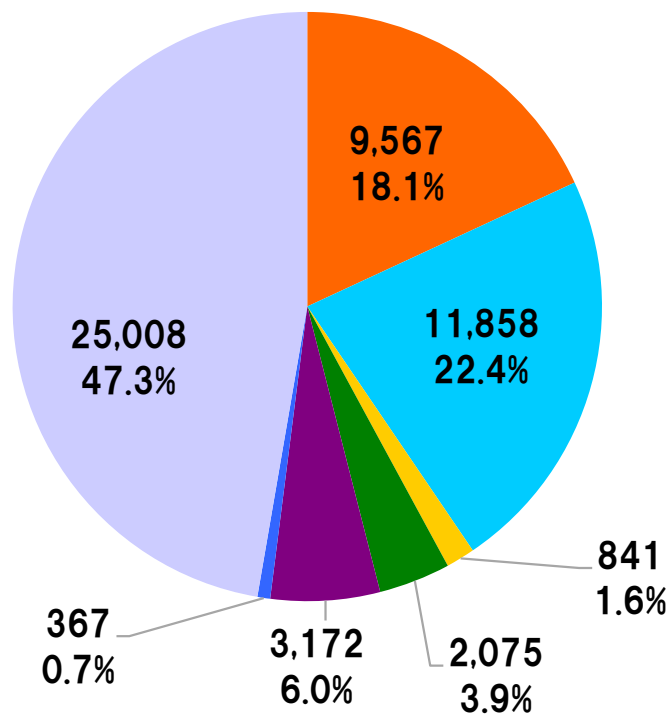


地域別売上構成比

■3期連続で海外売上高比率は50%超。エリアでは欧米の比率が上昇

2022年度

海外売上高比率: 52.7 %

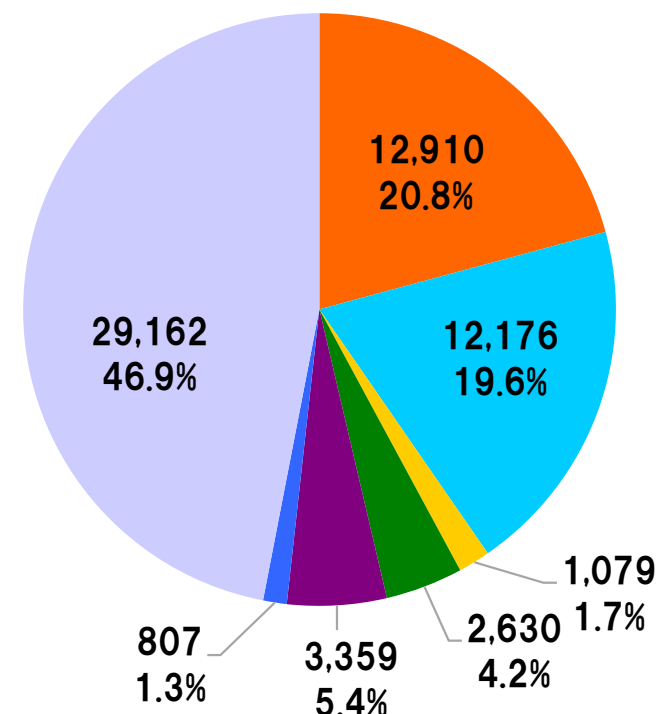
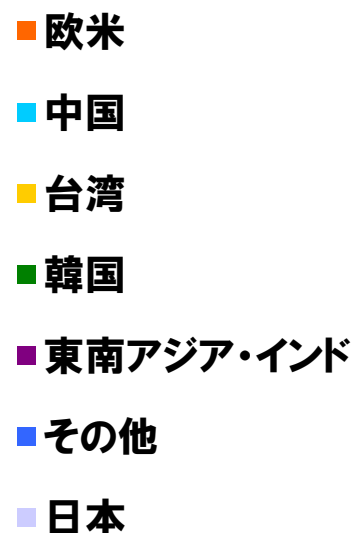


計 52,892百万円

海外売上高: 27,884百万円

2023年度

海外売上高比率: 53.1 %



計 62,126百万円

海外売上高: 32,964百万円

2024年度 業績予想について

■ 業績予想のポイント

- ・受注高は、国内を中心にEV・バッテリー分野の投資が継続、高水準を維持する見込み
- ・カスタム性の高い製品の生産増加を見込んでおり、国内の生産能力増強を図る

■ 想定為替レート

	2022年度	2023年度		2024年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USD(円)	135.51	141.06	144.59	145

2024年度為替感応度(対ドル1円円安):売上高190百万円増加、営業利益41百万円増加

2024年度 業績予想

(百万円)

	2023年度	2024年度 予想			
	通期実績	上期	下期	通期	前期比
受注高	62,290	31,000	32,000	63,000	+1.1%
売上高	62,126	30,500	34,500	65,000	+4.6%
売上総利益 利益率 (%)	21,994 35.4%	10,400 34.1%	12,200 35.4%	22,600 34.8%	+2.8% △0.6pt
販管費 販管费率 (%)	15,408 24.8%	7,500 24.6%	8,100 23.5%	15,600 24.0%	+1.2% △0.8pt
営業利益 利益率 (%)	6,585 10.6%	2,900 9.5%	4,100 11.9%	7,000 10.8%	+6.3% +0.2pt
経常利益 利益率 (%)	6,919 11.1%	3,050 10.0%	4,150 12.0%	7,200 11.1%	+4.0% +0.0pt
親会社株主に帰属する 当期純利益 利益率 (%)	4,969 8.0%	2,200 7.2%	3,000 8.7%	5,200 8.0%	+4.6% +0.0pt
1株当たり当期純利益 (円)	227.61	100.77	137.41	238.18	+4.6%
ROE	10.0%	—	—	9.6%	△0.4pt

2024年度 投資計画

(百万円)

	2023年度	2024年度 予想			
	通期	上期	下期	通期	前期比
設備投資額	2,695	820	2,370	3,190	+18.3%
減価償却費	1,492	790	880	1,670	+11.9%
研究開発費	1,239	660	670	1,330	+7.3%

主な投資内容

- ・新試験所開設、試験設備増強
- ・生産能力増強

主な開発内容

- ・先端技術分野の製品ラインアップ拡充
- ・低GWP冷媒など環境配慮型製品の拡充

環境認識

中国・北米経済の減速懸念はあるが、国内を中心にEV・バッテリー分野の投資継続を見込む

装置事業	環境試験器	<p>日本 : EV・バッテリー関連の投資が引き続き好調、IoT関連の投資は堅調に推移すると予想</p> <p>中国 : EV、IoT関連を中心に投資は継続するが、さらなる経済減速を懸念</p> <p>ASEAN・インド : EV・半導体関連の投資が堅調に推移すると予想</p> <p>北米 : EV・バッテリー、航空宇宙関連は堅調</p> <p>欧州 : 前期と同水準と予想</p>
	エナジーデバイス装置	国内で充放電試験用チャンバー・システムが引き続き好調と予想
	半導体関連装置	緩やかに投資が回復すると予想
サービス事業	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	<p>アフター・エンジ : 前期と同水準になると予想</p> <p>受託試験 : 車載用バッテリーの充放電試験・安全性試験が好調</p>
その他事業	環境保全 植物育成装置	植物工場やアクアポニックスが堅調に推移すると予想

2024年度 主な取り組み

装置事業

- ・国内の生産能力増強(要員増加、生産スペース拡大、外注活用)
- ・高付加価値製品のラインアップの拡充

サービス事業

アフターサービス:「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大
受託試験 :車載用バッテリーのサービス拡充
試験設備増強、“次世代モビリティテストラボ(仮称)”開設

エリア戦略

日本:EV・バッテリー分野、半導体分野での営業活動強化

北米:グループ連携によるEV・バッテリー分野の需要拡大への対応強化

中国:グループ連携による安定収益の確保

欧州:製品ラインアップ拡充による自動車およびIoT市場の開拓

韓国:グローバル大企業への販売拡大

セグメント別の業績予想

(百万円)

		2023年度	2024年度予想			
		通期実績	上期	下期	通期	前期比
装置事業	受注高	53,565	26,900	26,800	53,700	+0.3%
	売上高	53,518	26,600	29,400	56,000	+4.6%
	営業利益	5,848	2,680	3,500	6,180	+5.7%
サービス事業	受注高	7,634	3,700	4,300	8,000	+4.8%
	売上高	7,536	3,500	4,400	7,900	+4.8%
	営業利益	681	250	550	800	+17.3%
その他事業	受注高	1,453	600	1,100	1,700	+16.9%
	売上高	1,455	600	900	1,500	+3.0%
	営業利益	51	△30	50	20	△61.1%
連結消去	受注高	△363	△200	△200	△400	-
	売上高	△383	△200	△200	△400	-
	営業利益	3	0	0	0	-
計	受注高	62,290	31,000	32,000	63,000	+1.1%
	売上高	62,126	30,500	34,500	65,000	+4.6%
	営業利益	6,585	2,900	4,100	7,000	+6.3%

2024年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022~2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:
低GWP冷媒への置き換え、製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動:
事業による貢献、「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進

■S(社会)

- ・人的資本の最大化:
執行役員・管理職のマネジメント力強化、人事評価制度・教育制度の改革、
コミュニケーション活性化
- ・ダイバーシティの推進:
女性管理職の育成、シニア社員・外国人の活躍推進

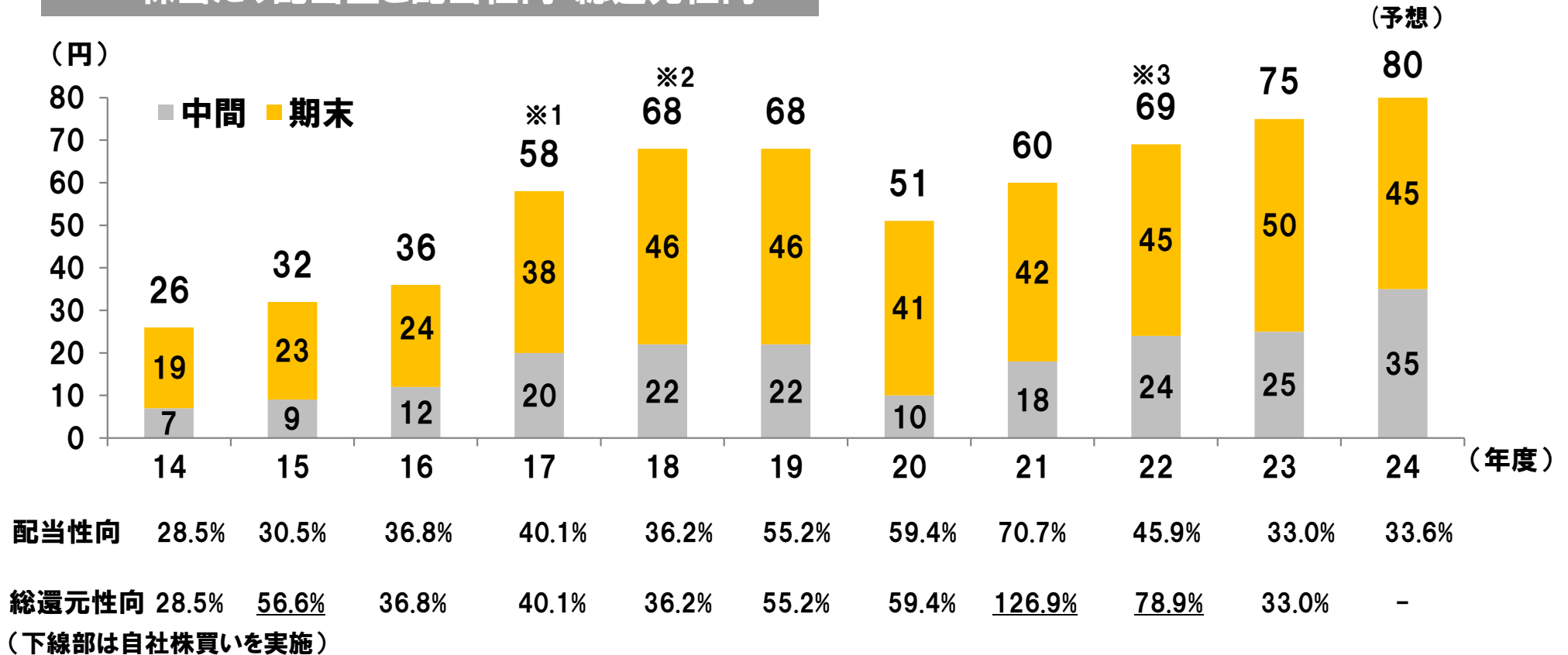
■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化:
子会社ガバナンスの強化、内部統制システムの強化

2024年度 配当予想

■2024年度の配当は年間80円、配当性向33.6%を予想

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

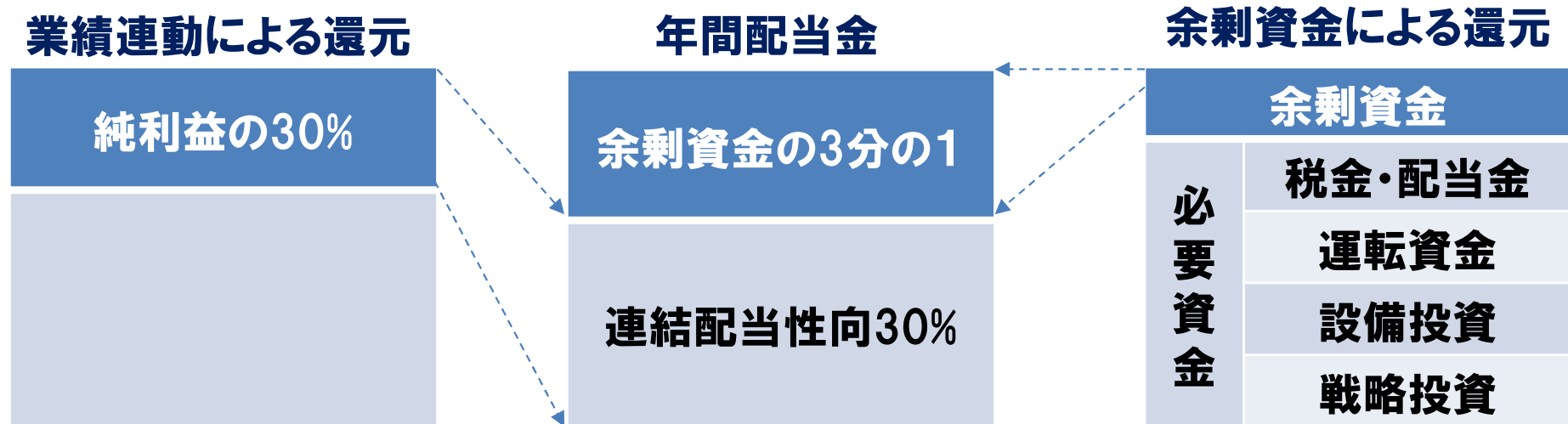
※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

配当基本方針

継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本とする

配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に上乘せする

また、必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する



※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

中期経営計画 経営目標の上方修正について

<2024年5月15日開示>

- ・EV・バッテリー向けの投資拡大および円安進行により、売上高・営業利益が当初目標を上回る見通しであることから、経営目標を修正
- ・営業利益率は、部材価格などコストの増加に対応するため製品・サービスの値上げを実施しているが当初予想は下回る見通し

■ 中期経営計画「プログレッシブ プラン2025」 経営目標

※基本方針や経営戦略の骨子に変更なし

	2025年度 当初目標	2025年度 修正目標	(参考)2023年度 実績
売上高	550億円	650億円	621億円
営業利益	70億円	75億円	65.8億円
営業利益率	12.7%	11.5%	10.6%
ROE	10%	10%以上	10.0%

為替レート(USDドル) 2025年度想定115円→145円に修正

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

<2024年5月15日開示>

■現状認識

- ・中期経営計画「プログレッシブ プラン2025」(2022～2025年度)にてROE目標10%を掲げており、業績の回復・拡大により、2023年度のROEは10.0%となった
- ・資産の状況としては、2022年度以降の受注拡大に伴い、棚卸資産が増加
- ・当社の株主資本コストは8%程度と見ており、安定的に10%以上のROE確保が重要と認識
- ・PBRは、2023年度末は1.26倍となったが、引き続き株価の維持・向上の取り組みが必要と認識

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

■方針

- ・中期経営計画「プログレッシブ プラン2025」の2025年度目標
売上高650億円、営業利益75億円、営業利益率11.5%、ROE10%以上の達成を目指す
- ・持続的成長に向けた成長投資を実行する
- ・総資産の増加抑制と投下資本に対する効率を高めることでキャッシュを創出し、
成長投資や株主還元を活用し企業価値向上を図る

■主な取り組み

- ・EV・IoT分野をターゲットとした成長戦略の実行、収益力の強化
- ・積極的な成長投資(事業・設備・研究・人材)と投資効果の明確化
- ・棚卸資産の圧縮によるキャッシュの創出および成長投資や株主還元への投入
- ・株式市場での評価向上および経営強化に向けた株主・投資家との対話充実

“次世代モビリティテストラボ(仮称)” 愛知県にて新試験所の建設に着手

- 2023年8月、愛知県常滑市に土地(7,500m²)を購入し、新試験所の建設に着手
- 大型化・高容量化が進む最先端の車載用バッテリーの安全性試験に対応
- 国連規則ECE-R100等、各種試験規格に対応
- 2025年2月開設予定



“次世代モビリティテストラボ(仮称)”イメージパース

バッテリー安全認証センター 受託試験設備を拡充

- 車載用バッテリーの安全性試験需要に対応するためバッテリー安全認証センター(栃木県宇都宮市)の試験設備を増強
- 2023年度は、充放電試験設備や釘刺し試験設備を20台設置



バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)

「熱変形計測システム」 販売・計測サービス開始

- ・2024年1月、温度環境下における半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化する熱変形計測システムの販売・計測サービスを開始
- ・消費電力や発熱の増大による実装基板の接合不良の課題解決に貢献



熱変形計測システム

半導体検査装置 高発熱負荷対応 「バーンインチャンバー」拡充

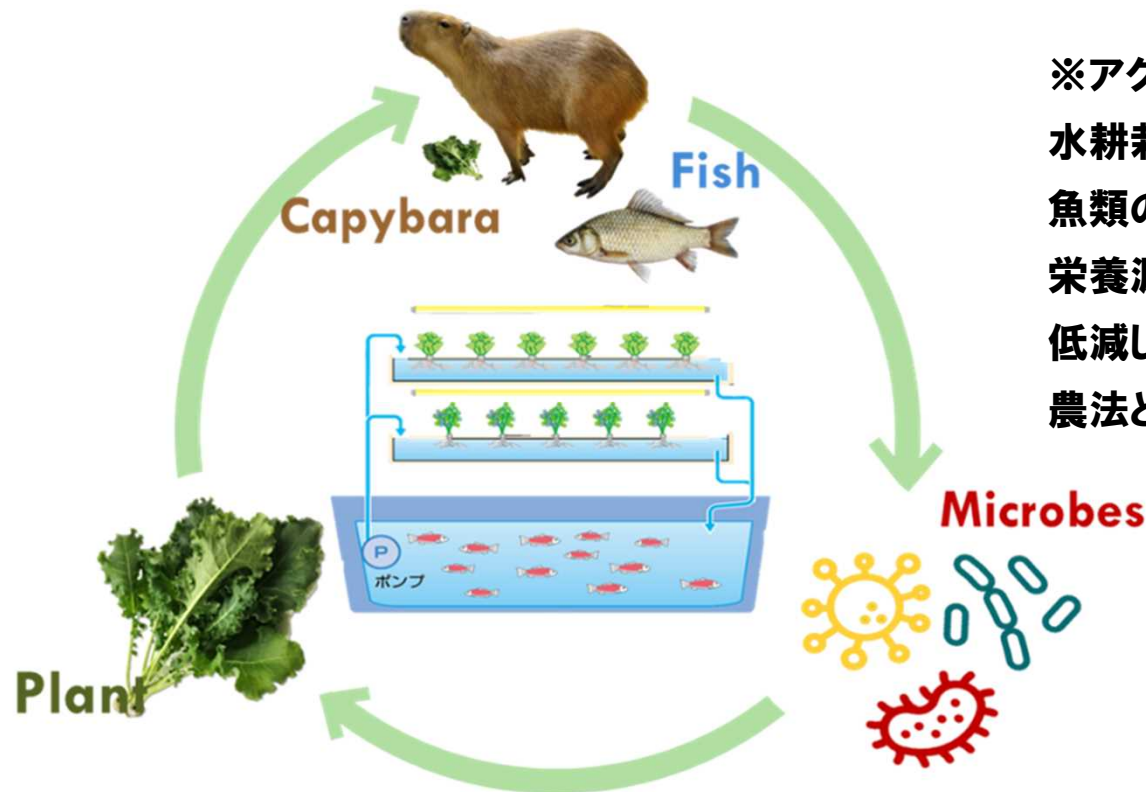
- ・2023年3月、 -20°C ～ $+150^{\circ}\text{C}$ において許容発熱量を4倍(当社従来装置比)に拡大したバーンインチャンバーを拡充
- ・半導体が高発熱状態でも精密に温度制御可能
- ・検査量を大幅に増加、検査時間短縮に貢献



高発熱負荷対応「バーンインチャンバー」

エスペックミック 川崎水族館（カワスイ）にて アクアポニックスを活用した共同研究を開始

2023年6月、エスペックミックが川崎水族館(カワスイ)、日本大学生物資源科学部 熱帯資源作物研究室と、アクアポニックスを活用した物質循環システムの実証実験に関する共同研究を開始



※アクアポニックスとは
水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせたシステム。
魚類の糞尿を微生物分解させ、野菜生育に必要な
栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または
低減した野菜生産が可能。近年、環境に配慮した
農法として注目が高まっている。

「アクアポニックスを活用した物質循環システム」イメージ図

社外からの評価

■2024年

3月・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」
2年連続で最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」

2月・CDP 気候変動分野で4年連続「Bスコア」、水セキュリティは「C-スコア」
・東洋経済新報社「2024年版CSR企業ランキング」375位

■2023年

12月・「Gomez IRサイトランキング2023」銅賞（業種別27位）
・「大和インターネット IR表彰2023」優良賞
・「2023年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト

11月・日本経済新聞社「第5回日経SDGs経営調査」3.5つ星
・日本経済新聞社「第7回日経スマートワーク経営調査」3つ星

10月・日刊工業新聞社（経産省後援）「第19回企業力ランキング」157位

8月・「Gomez ESGサイトランキング2023」優秀企業

6月・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に初選定

■ESG指数組入れ

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年4月初選定）



★★★ 2024



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。**

**実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。**

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川

IR・広報グループ 大川・貝川

Quality is more than a word

ESPEC

証券コード6859

参考資料

会社紹介・事業概要

2024年5月23日
エスペック株式会社

会社概要

環境試験器の世界トップメーカー

会社名

エスペック 株式会社

本社住所

大阪市 北区 天神橋 3-5-6

代表者

代表取締役 執行役員社長
荒田 知（あらた さとし）

創業年月日

1947年(昭和22年)7月25日

設立年月日

1954年(昭和29年)1月13日

資本金

6,895百万円

発行済株式総数

23,781,394株

従業員数

1,775名(連結)

事業内容

環境試験器、エナジーデバイス装置、半導体関連装置、
植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など



本社

環境試験器シェア

世界30%以上 国内60%以上

※シェアは当社推定

(2024年3月31日現在)

グローバルネットワーク

連結子会社 14社
(海外9社、国内5社)

海外ネットワーク
50ヵ所(国・地域)
44社

国内営業・サービス拠点
16ヵ所
国内代理店 46社

欧州

- ESPEC EUROPE GmbH
- △ ESPEC IKLIM KABINLERI SATIS VE MUHENDISLIK LIMITED SIRKETI

日本

- エスペック(株) ※
- エスペックテストシステム(株) ※
- エスペックアシスト(株)
- エスペックミック(株)
- エスペックサーマルテックシステム(株) ※
- コスモピアハイテック(株) ※

アジア

- 上海愛斯佩克環境設備有限公司 ※
- 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
- 愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司 ※
- 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
- ESPEC(CHINA)LIMITED
- ESPEC KOREA CORP. ※
- ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
- △ ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

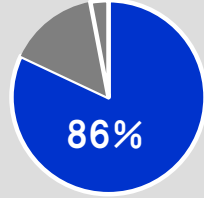
米国

- ESPEC NORTH AMERICA, INC. ※

- 印・・・連結子会社
- △ 印・・・非連結子会社

※は生産機能を持つ会社

事業概要(各事業の市場/用途)

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2023年度	
装置事業	環境試験器	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 ・ハストチャンバー 	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・HALT試験装置 ・FPD装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・医薬品、食品等 ・LCD、有機EL 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査 	 <p>86%</p>
	エネルギーデバイス装置	<ul style="list-style-type: none"> ・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産 		
	半導体関連装置	<ul style="list-style-type: none"> ・バーンイン装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・計測システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体 ・自動車 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産、検査 ・開発、評価 	
サービス事業	アフターサービスエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器周辺工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 	—	 <p>12%</p>
	受託試験レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・受託試験 ・リセール 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器レンタル ・校正 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 		
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化			 <p>2%</p>	
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など				

環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代>

日本で民生品の環境試験がJIS規格化



<1970年代～1990年代>

「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要なテーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い需要が飛躍的に拡大



<現在>

デジタル化、脱炭素化を背景にIoTや次世代自動車の開発分野において需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



低温恒温恒湿器 ルシファー

世界シェア No.1

経産省「グローバルニッチトップ企業100選」を連続受賞(2013年度、2020年度)

国内シェア
60%以上

世界シェア
30%以上

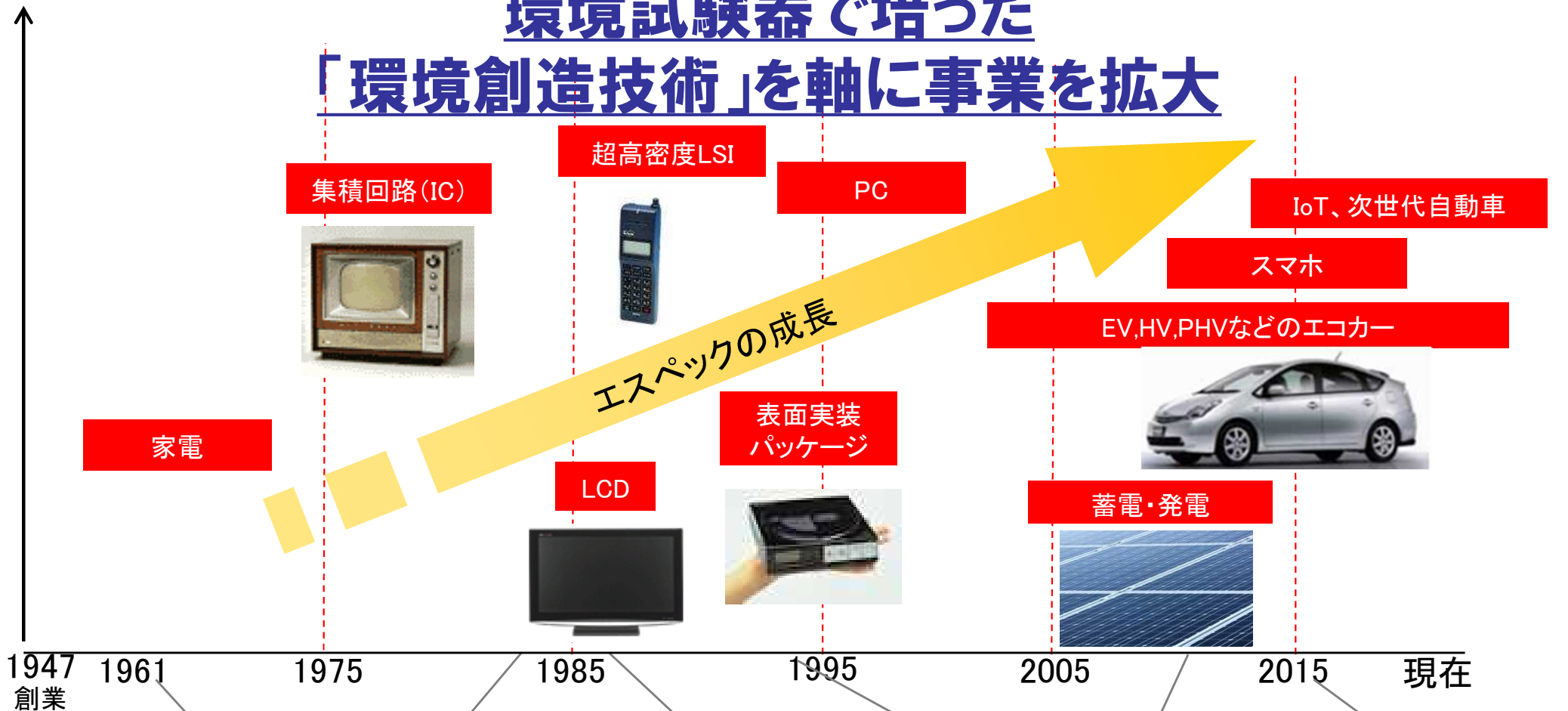
※シェアは当社推定



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

事業の変遷

環境試験器で培った 「環境創造技術」を軸に事業を拡大



エスペックの強み

トップシェア

シェアは世界30%以上、国内60%以上(当社推定)
国内で初めて環境試験器を開発し早期に国内外で
ブランドを確立、トップシェアを長年保持

技術力 製品・サービス力

- ・高品質かつ顧客の要望に応じた多種多様な製品を開発
- ・多品種少量生産を可能とする生産技術力
- ・製品はじめ受託試験やテクニカルサポートなど環境試験の
トータルソリューション、アフターサービス力

グローバル体制

充実したグローバルネットワークで各国のニーズに適合した
製品をグローバルに提供

連結子会社 : 14社(海外9社、国内5社)

海外生産拠点 : 北米1社、中国2社、韓国1社

海外ネットワーク : 50ヵ所(国・地域)44社

【装置事業】環境試験器の用途事例

部品・モジュール・完成品単位と繰り返し試験を実施し、新技術・新製品の信頼性を確保



環境試験の代表例

電気自動車(EV)イメージ

デバイス	プロセス/試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
		■高温放置: $+175^{\circ}\text{C}$ 、 $+85^{\circ}\text{C}$	(小型)オープン
		■バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■基板の温度サイクル試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +110^{\circ}\text{C}$	低温恒温器(プラチナス)/オープン
		■はんだ付け後の温度特性試験: $-30^{\circ}\text{C} \Rightarrow +85^{\circ}\text{C}$ をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
	評価	■冷熱衝撃試験: $-30^{\circ}\text{C} \leftrightarrow \text{RT} \leftrightarrow +80^{\circ}\text{C}$ 、 $-55^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +155^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
【CCD/CMOS】 	生産	■拡散試験: $+150^{\circ}\text{C}$	小型オープン
		■洗浄後の乾燥: $+85^{\circ}\text{C}$	クリーンオープン
	評価	■スクリーニング: $+85^{\circ}\text{C}$	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
	検査	■温湿度試験: $+85^{\circ}\text{C} / +85\% \text{rh}$ 、 $+60^{\circ}\text{C} / 90\% \text{rh}$	恒温恒湿器(プラチナス)
		■加速試験: $+120^{\circ}\text{C} / 100\% \text{rh}$	HASTチャンバー
	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$ 、 $-20^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +85^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置	

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2024年1月	熱変形計測システム	<ul style="list-style-type: none">・温湿度環境下での半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化・消費電力や発熱の増大による接合不良の課題解決に貢献
2023年3月	高発熱負荷対応 バーンインチャンバー	<ul style="list-style-type: none">・半導体が高発熱状態でも精密な温度制御が可能・検査量を大幅に増加でき、検査時間短縮に貢献
2023年2月	電波暗箱型恒温器ラインアップを拡充	<ul style="list-style-type: none">・5G通信機器の温度特性試験に対応・試験品の大型化に対応し内容積の大きな4器種を拡充
2022年4月	低GWP※冷媒「R-473A」搭載 ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ	<ul style="list-style-type: none">・GWP値を大幅に削減(88%減)、運転時の省エネも実現 <p>※GWP:地球温暖化係数</p>
2021年6月	超低温保冷库	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナワクチンなどのマイナス75℃小口保管用途
2021年4月	定温輸送保冷库	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナワクチンなどの小口輸送・保管に最適・振動に強く、省電力、ポータブル
2021年2月	減圧低温加熱調理器 モデルチェンジ	<ul style="list-style-type: none">・温度に加え真空度の精密な制御も可能
2020年8月	ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズラインアップを拡充	<ul style="list-style-type: none">・新たに急速温度変化タイプとして4器種を発売 <p>シリーズで計32器種をラインアップ</p>

【装置事業】新製品紹介①

自動車分野向け

(2020年2月発売)

■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ

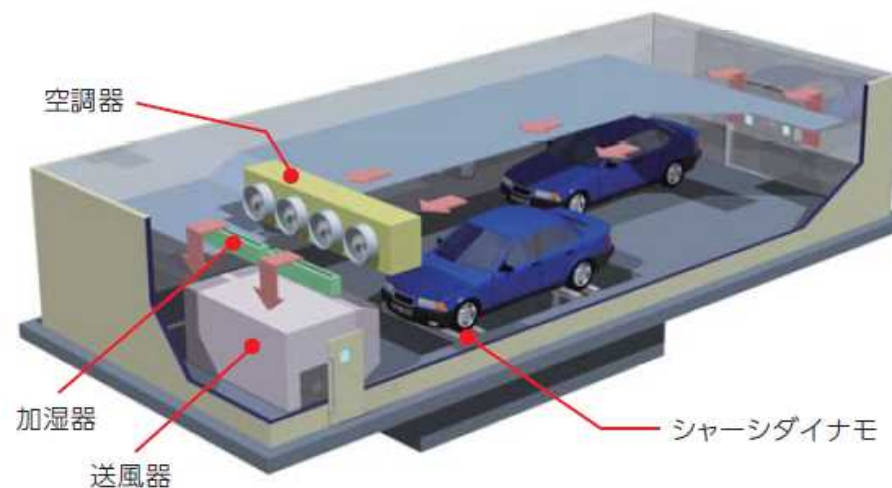
- 国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格「LV124」に適合
(有試料3°C/分の急速温度変化試験が可能)
- 低GWP冷媒(R-449A)を標準搭載



恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー
ハイパワーシリーズ

■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ

- 車2台が入る約500m³の大空間でさまざまな気象環境を精密に再現し、実車試験が行える
- 温湿度に加え、日射、雨、雪、霧、風などの環境因子を複合して再現可能



車2台が入る実車試験のイメージ

恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー
ドライブインシリーズ

【装置事業】新製品紹介②

半導体分野向け

(2024年1月発売)

(2023年3月発売)

■熱変形計測システム

- 温度環境下における半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化
- システムを使った計測サービスも提供
- 消費電力や発熱の増大による実装基板の接合不良の課題解決に貢献



熱変形計測システム

■高発熱負荷対応バーンインチャンバー

- $-20^{\circ}\text{C} \sim +150^{\circ}\text{C}$ において許容発熱量を4倍(当社従来装置比)に拡大したバーンインチャンバーを拡充
- 半導体が高発熱状態でも精密に温度制御可能
- 検査量を大幅に増加、検査時間短縮に貢献



高発熱負荷対応バーンインチャンバー

【装置事業】環境試験器の納入事例①

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入

(2018年7月納入)

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式になっており、試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を装備し、屋外の気象環境を再現します

【装置事業】環境試験器の納入事例②

(2016年3月納入)

■産総研 福島再生可能エネルギー研究所 スマートシステム研究棟(福島県郡山市)

納入製品:

大型恒温恒湿室

用途:

太陽光発電向けの
大型パワーコンディショナーの性能・安全性評価
100kwもの発熱負荷や重さ(21トン)にも対応



大型恒温恒湿室

■独立行政法人 製品評価技術基盤機構 蓄電池評価センター(大阪市南港)

納入製品:

- ①充放電試験用の恒温恒湿室
- ②外部短絡試験装置(エナジーデバイス装置)

用途:

- ①充電・放電を繰り返すことで蓄電池の性能を評価
- ②蓄電池がショートした場合に、発火や破裂しないことを確認し、安全性を評価



充放電試験用の恒温恒湿室

【装置事業】エネルギーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

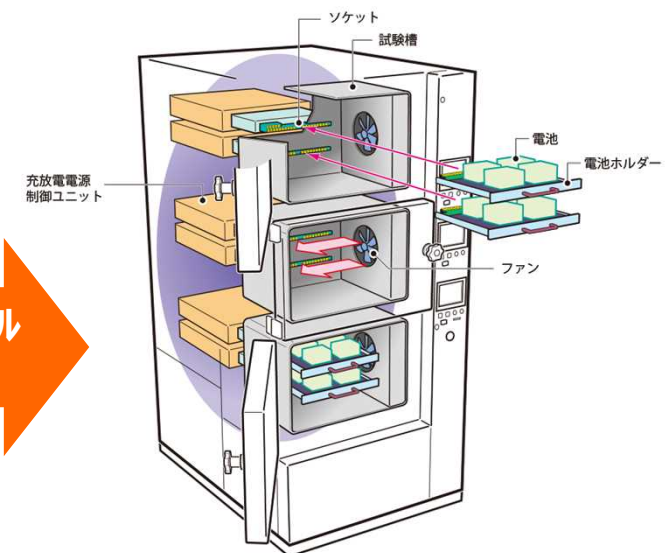
ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置



二次電池用
充放電評価装置



充放電サイクル
負荷



二次電池の充放電特性を確認

二次電池の性能や寿命を評価

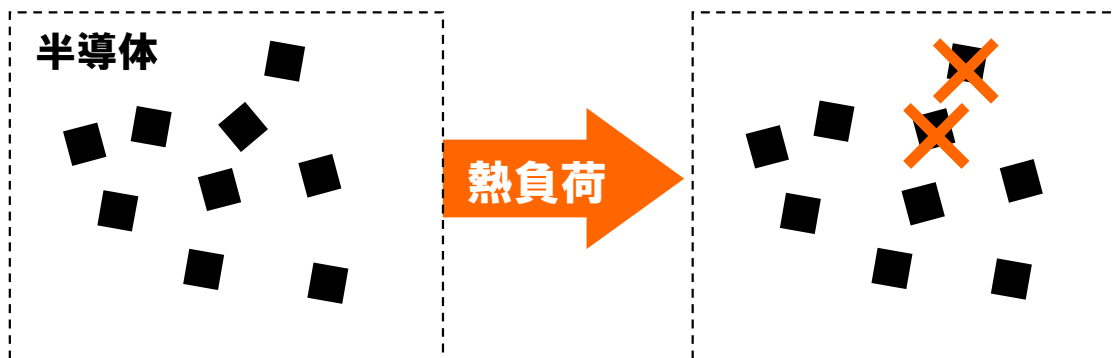
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除去し初期品質を確保



バーンインチャンバー



潜在的な初期故障を除去

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価



導体抵抗評価システム



熱サイクル
負荷



電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電氣的に評価

【サービス事業】

アフターサービス・エンジニアリング

製品の予防保全、メンテナンスサービス、製品の改善・改良、設置・移設など

- 国内No.1のネットワークによるスピーディな対応
- 業界初 ネットワークを使ったサービス「エスペックオンラインシリーズ」を提供

受託試験・レンタル

受託試験・分析・評価、コンサルティング、製品レンタル、中古製品の販売、試験器校正など

- 国内4カ所、タイ1カ所、中国2カ所に受託試験所を展開
(国内:宇都宮・豊田・刈谷・神戸、タイ、中国:上海・蘇州)
- ・ 計量法校正事業者認定制度(JCSS)に基づく校正機関
- 世界初「バッテリー安全認証センター」開設(2015年9月)
- ・ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した試験・認証申請のワンストップサービスを提供
- ・ 第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携(2014年10月)
- ISO/IEC 17025*試験所認定を自動車・鉄道・航空機の3分野で取得
- 豊田試験所では、国内初ドイツ自動車業界規格「LV124」の全試験項目に対応



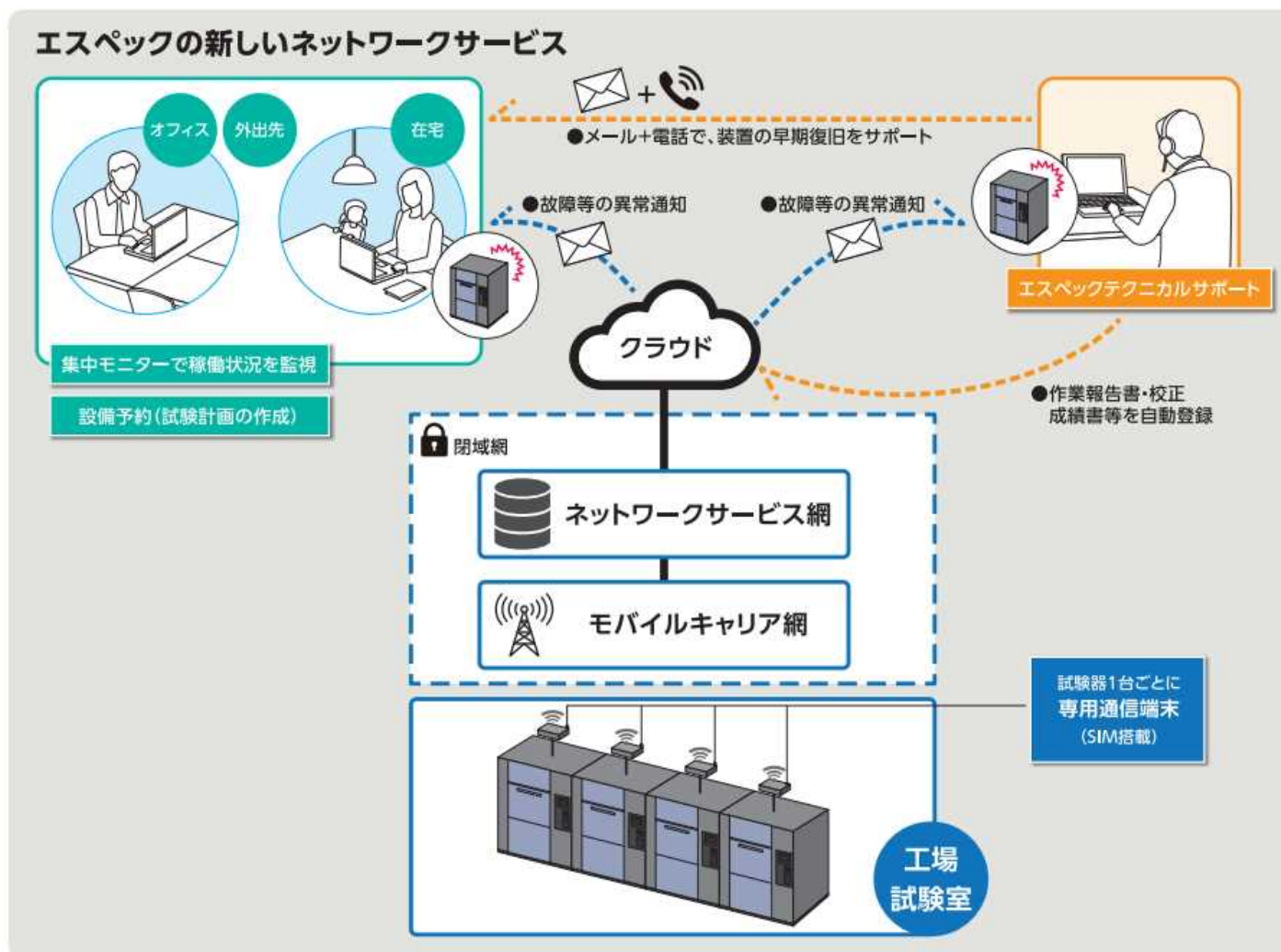
バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)

*ISO/IEC17025:試験所・校正機関が正確な測定/校正結果を生み出す能力があるかどうかを権威ある第三者認証機関が認定する国際標準規格

【サービス事業】アフターサービス

(2022年4月開始)

モバイル通信・クラウド活用「ネットワークサービス」
お客様の試験・設備管理の負担軽減、装置のダウンタイムを低減



【サービス事業】受託試験サービス

世界初 国連規則に対応 「バッテリー安全認証センター」

- ・2015年9月、宇都宮テクノコンプレックスに開設
- ・国連規則ECE R100-2. Part IIで定められた9項目の安全性試験の実施・認証機関への認証申請をサポートするワンストップサービスを提供



圧壊試験機(第1安全試験室)



第2安全試験室

国内初 車載用バッテリーパック・ モジュール不具合解析サービス

- ・2022年11月、パック・モジュールを解体したうえで電氣的・視覚的に診断し、不具合の部位を特定する解析サービスを開始
- ・公正な第三者機関としてサービスを提供し、車載用バッテリーの性能・安全性確保に貢献



セル解体用グローブボックス

【サービス事業】受託試験サービス

国内初 ドイツ自動車業界の 全試験規格に対応

- ・2019年9月、豊田試験所にて、ドイツ自動車業界規格LV124の全試験項目に対応
- ・グローバル化を進める日本の車載機器メーカーをサポート



豊田試験所

国内初 受託試験サービス 100%再生可能エネルギーを実現

- ・2021年4月より、全国5つの試験所(宇都宮・豊田・刈谷・神戸・バッテリー安全認証センター)で実施する受託試験サービスを再エネで提供
- ・お客様のサプライチェーンにおけるCO2排出量削減に貢献



CO2排出量ゼロを明示する「グリーンパワーマーク」
当社試験所で実施した試験報告書に表記

【その他事業】

環境保全

■ 森づくり

潜在自然植生データによる樹種選定、幼苗植栽手法を用いた郷土の森づくり

■ 水辺づくり

水生植物を活用した、自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化

■ 都市緑化

ヒートアイランド現象の緩和に効果的な苔による屋上・壁面緑化システム



植物育成装置

植物の育成に必要な光・温湿度・養分などを最適にコントロールして植物を育成する植物工場や研究用育苗装置



植物工場



ファイトロン

【その他事業】植物育成装置

農研機構と共同開発 「栽培環境エミュレータ」

- 2022年10月、農研機構などと共同で特許を取得※
- 季節ごとの二酸化炭素濃度、温度、湿度等を精密に再現
- 気候変動に適応した作物生産技術の開発に貢献



栽培環境エミュレータ

海洋深層水を使用した 高付加価値野菜を生産

- 羽田空港近郊に設置した植物工場において、
海洋深層水を使用したミネラル豊富な高付加価値
野菜を生産・販売



植物工場と生産野菜「ミネラリーフ」

※エスペックミック株式会社、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）、
国立研究開発法人理化学研究所、一般財団法人 アグリオープン
イノベーション機構が共同で取得

【その他事業】植物育成装置の納入事例

■鳥取大学乾燥地研究センター

(2016年3月納入)

納入製品:

乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用途:

乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子
(小麦の乾燥ストレスを実験)

全天候型試験ラボの紹介(神戸R&Dセンター内)

(2021年3月)

世界初「全天候型試験ラボ」をオープン オープンイノベーションを推進し環境創造技術を強化

7つの環境因子(温度・湿度・雪・霧・雨・光・風)を高精度に制御・可変し
動的気象環境(刻々と変化する気象環境)を再現

■ 全天候型試験ラボ



試験室 幅6m×奥行9m×高さ3m
光の乱反射を抑える黒色コーティング

■ 動的気象環境における試験例



① みぞれ→雪への変化を再現する試験

水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0℃前後での降雪も可能。雪質と温度を制御し、みぞれから雪への変化を再現。着雪が課題となっている自動運転用センサーの性能を確認できる。



② 雨→霧への変化を再現する試験

霧の濃さと温湿度を制御し、雨から霧への変化も再現。霧の影響を受ける自動運転用センサーの性能を確認できる。

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川
IR・広報グループ 大川・貝川

証券コード6859

参考資料

サステナビリティの取り組み

2024年5月23日
エスペック株式会社

エスペックのサステナビリティについて

**当社は企業理念「THE ESPEC MIND」のもと
環境創造技術をかなめとした事業で社会や環境の
課題解決に貢献し、持続的な成長を目指しています。**

企業理念

創業当時から脈々と伝わるエスペックの大切な価値観 企業理念「THE ESPEC MIND」(抜粋)

起 点

社会の公器として、すべてのステークホルダーとより良い価値交換を目指す

使 命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

スタイル

プログレッシブ(進取的な)、リライアブル、オープン、フェア

宣 言

社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

サステナビリティ方針とマテリアリティ

持続的成長に向けて、サステナビリティ方針を策定し、「社会的価値」「経済的価値」を創出していくために取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定

サステナビリティ方針

- 企業理念「THE ESPEC MIND」の実践により、「社会的価値」と「経済的価値」の創出と向上を図ります
- ステークホルダーとのより良い価値交換により持続的成長を目指します
- ESPEC Vision 2025のもと、「環境創造技術」をかなめとした事業活動を通じて地球環境や社会課題の解決に貢献します
- サステナビリティに関する情報開示を積極的に行います

マテリアリティ

- ・グローバルな事業を通じた社会課題解決
- ・責任ある製品サービスの提供
- ・環境への配慮
- ・従業員の成長と働きがいの創出
- ・透明・公正な経営

エスペックのSDGsへの貢献

エスペックは、先端技術分野をはじめ幅広い分野で、「環境創造技術」を核とした製品・サービスを提供し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

エスペック

提供する価値

- ・環境創造技術を核とした製品・サービスの提供
- ・環境保全サービスの提供
- ・地球温暖化や異常気象に対応した植物工場の提供

強み

- ・社会の発展に不可欠な事業領域
- ・世界トップブランドと独自技術による質の高い製品・サービス
- ・グローバルな生産・販売ネットワーク

お客様の製品・技術



- ・自動車(EV・自動運転)
 - ・電子部品(半導体)
 - ・IoT
 - ・AI
 - ・バッテリー
 - ・医薬品
 - ・食品
 - ・マテリアル
 - ・環境保全
 - ・アグリカルチャー
- など

社会

持続可能な社会の実現へ



- ・クルマの自動運転技術・予防安全技術の開発による安全・安心な社会の実現
 - ・省エネ技術やEV技術の開発による環境・エネルギー問題解決への貢献
 - ・IoT関連技術の開発による人手不足の解消、生産性の向上
 - ・森づくりや水辺づくりなどの環境保全事業による生物多様性保全
 - ・異常気象に対応した植物の作出研究支援や、植物工場による食の安定供給
- など

エスペックの事業とSDGs

装置事業



環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を提供

●エナジーデバイス装置

エコカーに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供

●半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供

●医薬用機器

バイオ医薬品などの輸送に適した定温輸送保冷库や、医薬品などの安定性試験装置などを提供



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



自動車一台入る
実車試験装置



半導体検査用
バーンインチャンバー



二次電池用
充放電評価装置

エスペックの事業とSDGs

サービス事業



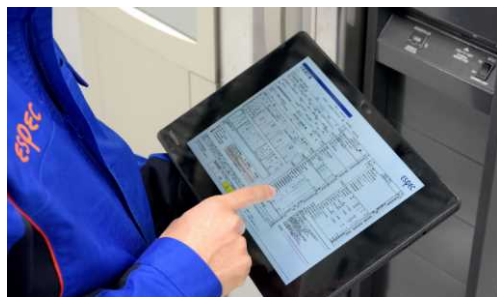
環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献
・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●アフターサービス・エンジニアリング

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう
製品のメンテナンスや予防保全を実施

●受託試験サービス

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験
サービスを提供



ITを活用したテクニカルサポート



国連規則など二次電池の各種安全性試験に対応
バッテリー安全認証センター

エスペックの事業とSDGs

環境保全事業



生物多様性保全への貢献

生物多様性やCO2の固定化に貢献する「森づくり」のほか、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」、在来種による「草地づくり」など自然環境を復元する環境保全事業



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

植物育成装置事業



地球温暖化や異常気象に対応した食の安定供給への貢献

温度や光などを制御し、効率的に野菜を生産できる植物工場や研究用装置のほか、水や養分を循環させて野菜と魚を一緒に育成するアクアポニックスなどのシステムも提供



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売



乾燥地植物気候変動
応答実験設備
(鳥取大学 乾燥地研究センター)

サプライチェーンにおけるSDGsへの貢献

調達

- 環境面やコンプライアンスなどを含めたサプライヤ評価の実施
- 事業継続マネジメントによる不測の事態への対応
- 調達時の排出物の抑制



開発・設計

- 省エネ、低GWP冷媒の搭載、化学物質の排出抑制、廃棄時の環境負荷低減など環境に配慮した製品の開発・設計



生産・物流

- CO₂排出量の削減
- 化学物質の適正管理・排出抑制
- 取水量の削減・排水の適正管理
- 排出物の削減・リサイクル
- 環境に配慮した物流



製品・サービスの販売

- 社会・環境課題の解決に向けた先端技術の発展に貢献する製品・サービスの提供
- 環境配慮型製品、サービスの提供
- 「森づくり」や「水辺づくり」などの環境保全事業の推進
- 植物育成装置事業の推進



廃棄

- 製品回収
- フロン回収
- リサイクル、リセール



サプライチェーンを支える基盤

- 顧客満足の上昇と製品の品質・安全
- 人権の尊重
- 多様な人材の活躍推進
- 適切な情報開示・コミュニケーション
- 透明性のある公正な経営



環境・エネルギー問題の解決に貢献する製品・サービス

■ 二次電池や燃料電池、太陽電池、パワーデバイスの性能や耐久性を評価する製品群



二次電池用
充放電評価装置



燃料電池用
環境試験装置



太陽電池モジュール用
温度サイクル試験システム



パワーデバイス用
パワーサイクル試験装置

■ 世界初「バッテリー安全認証センター」

車載用バッテリーの国連規則に適合した安全性試験の
実施および認証機関への認証申請をサポート



バッテリー安全認証センター
(栃木県宇都宮市)

■ 再生可能エネルギー100%による受託試験サービス（国内）

環境目標・環境中期計画

2030年度 環境目標

温室効果ガス排出量(2019年度比)

SCOPE 1+2(自社排出) 60%削減、SCOPE 3(間接排出) 30%削減

2023年7月、国際的なSBTイニシアチブ※より「SBT (Science Based Targets)」認定を取得

※SBTイニシアチブ

パリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標の設定を推進している国際的なイニシアチブ。CDP、UNGC(国連グローバル・コンパクト)、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)が共同で運営。



第8次環境中期計画(2022年度～2025年度)

基本方針「グリーンテクノロジーを開発されているお客さまへの事業を通じた貢献」

地球温暖化対策および生物多様性保全を中心に取り組みを強化

<2025年度 目標>

- ・温室効果ガス排出量(2019年度比) SCOPE 1+2 55%削減、SCOPE 3 10%削減
- ・エスペックミック植樹本数50,000本・CO2固定貢献95t(累計)
- ・兵庫県三田市「エスペック50年の森」運営による生物多様性保全活動

生物多様性保全の取り組み①

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター 「エスペックバンビの里」が環境省「自然共生サイト」認定

社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、2つの池と小川からなるビオトープを設置
2023年10月、環境省「自然共生サイト」に認定



全国みどりの工場大賞
National Award for Greenery Factory

経産省「全国みどりの工場大賞」
2022年度「近畿経済産業局長賞」を受賞



ABINC
Association for Business Economy
in Harmony with Nature and Community

2022年度 いきもの共生事業推進協議会
「いきもの共生事業所 (ABINC) 認証」を取得

生物多様性保全の取り組み②

兵庫県立大学と「SDGs推進」に関する協定を締結

- ・2022年8月、兵庫県立大学とSDGs推進を目的とした協定を締結
- ・生物多様性保全、教育・人材育成、環境・エネルギーなどの分野において両者が持つ知見や技術を活かして連携



締結式
兵庫県立大学 学長 太田勲様(右)
エスペック 代表取締役会長 石田雅昭(左)

生物多様性保全活動 「エスペック50年の森」

- ・2022年11月、兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくりを開始
- ・2024年4月までに全3回の植樹祭を開催
- ・2年間で社員などのべ約400名が参加、計12,000本を植樹



第3回植樹祭
苗は炭素固定・生物多様性機能をふまえて選定

ダイバーシティの推進

女性活躍推進の取り組み



厚生労働省より、
子育てサポート企業認定マーク「くるみん」、
女性活躍推進法に基づく認定マーク
「えるぼし」の最高位などを取得



女性リーダー育成研修会

障がい者就労農園 「エスペックスマイルファーム」

- 2021年11月、障がい者雇用支援会社が運営する貸農園内に障がい者就労農園を開設
- 障がいのある方3名と管理業務を行う1名の計4名を採用
- 栽培した野菜は、地域の子ども食堂への寄付や社員への配布などに活用



社員一同で野菜を収穫

社員教育・寄付制度

社員教育制度の充実

- ・企業理念の共有を目的とした研修会の実施
- ・国際的に活躍できる人材育成を目的としたグローバルトレーニープログラムの実施
- ・経営幹部育成および自己啓発を支援する教育プログラムの拡充



グローバルトレーニープログラム
現地研修(アメリカ)

従業員参加型の寄付制度 「エスペックスマイルクラブ」

- ・SDGs推進活動の一環として、従業員の寄付金に会社が寄付金を上乗せするマッチングギフト制度
- ・子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付
- ・2024年4月、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「パレスチナ自治区ガザ地区・緊急支援」、
「2024年能登半島地震 緊急子ども支援」に
総額893,400円を寄付



社会貢献活動

エスペック地球環境研究・技術基金

- ・地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施
- ・設立から25年
計273団体に総額1億3,840万円を助成
- ・2022年9月、設立25周年記念式典を開催



2022年度授与式・設立25周年記念式典

宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹祭

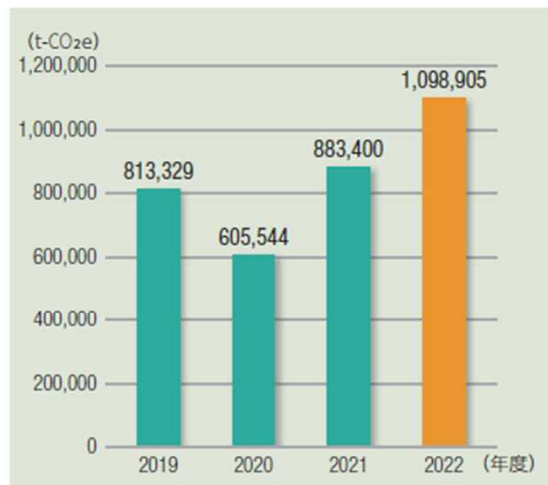
- ・2013年にスタートした震災復興プロジェクト
- ・岩沼市の沿岸部10kmにわたる植樹による「森の防潮堤」 植樹本数は累計35万本
- ・グループ会社であるエスペックミックが支援
- ・ファイナル植樹祭が2021年6月（前編）、2022年5月（後編）に開催された



植樹祭

非財務データ①

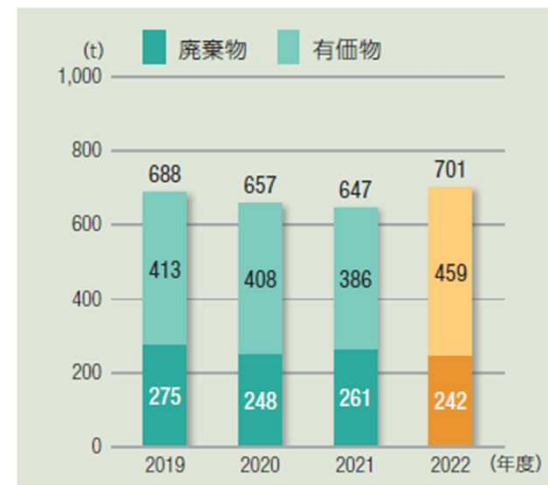
温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2+3合計(連結)



温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2 (自社排出) (連結)



排出物総量(単体)



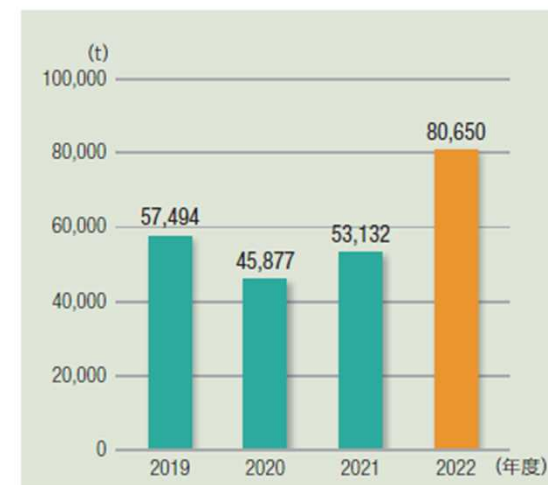
環境社会検定試験 (eco検定)
資格取得率(単体)



エスペック地球環境研究・
技術基金による助成



環境保全事業による植樹本数



※エスペックミック株式会社 実績

非財務データ②

女性管理職比率

定期採用での女性比率(単体)



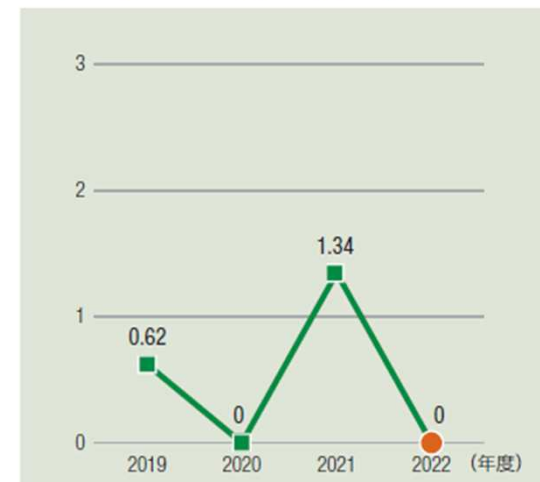
※各年度期初時点

障がい者雇用率(単体)



※各年度末時点

労働災害度数率^{*}(単体)



※休業災害被災者数/延べ労働時間数×100万時間

非財務データ③

(年度)		2019	2020	2021	2022
従業員数 ^{※1} (連結)		1,512名	1,526名	1,628名	1,691名
従業員数 ^{※1} (単体)	男性	673名	658名	643名	636名
	女性	113名	122名	127名	142名
	合計	786名	780名	770名	778名
平均勤続年数(単体)		17.4年	19.2年	19.1年	17.2年
平均年齢(単体)		41.2才	43.1才	43.0才	41.2才
離職率 ^{※2} (単体)		2.4%	2.3%	1.6%	1.4%
平均残業時間(単体)		21.2時間	11.0時間	15.5時間	22.6時間
年次有給休暇取得率(単体)		73.4%	65.8%	69.1%	75.1%
育児休業取得率(単体)	男性	7.0%	12.5%	30.8%	13.3%
	女性	対象者なし	100%	100%	100%
労働災害件数(不休災害を除く)(単体)		1件	0件	2件	0件
健康診断受診率(単体)		100%	100%	100%	100%
取締役会 ^{※3} (単体)	独立社外比率 ^{※4}	25%	25%	25%	40%
	女性比率 ^{※4}	0%	0%	0%	20%

※1 各年度末時点

※2 定年退職者を除く

※3 2022年6月、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行

※4 各年度6月末時点

社外からの評価

■2024年

3月・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」
2年連続で最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」

2月・CDP 気候変動分野で4年連続「Bスコア」、水セキュリティは「C-スコア」
・東洋経済新報社「2024年版CSR企業ランキング」375位

■2023年

12月・「Gomez IRサイトランキング2023」銅賞（業種別27位）
・「大和インターネット IR表彰2023」優良賞
・「2023年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト

11月・日本経済新聞社「第5回日経SDGs経営調査」3.5つ星
・日本経済新聞社「第7回日経スマートワーク経営調査」3つ星

10月・日刊工業新聞社（経産省後援）「第19回企業力ランキング」157位

8月・「Gomez ESGサイトランキング2023」優秀企業

6月・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に初選定

■ESG指数組入れ

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年4月初選定）



★★★ 2024



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

**サステナビリティ推進部 部長 中川
IR・広報グループ 大川・貝川**